

前世の記憶を持つ
身としては
男に抱かれる事に
それなりの葛藤もあつたが



割り切つてしまえば
なんてことはなかった

恋愛感情なんてない





だから大佐殿が
他の誰かといょうが



私には関係ない



どうして
こうなったのか

疲労だとか、
苛立ちだとか

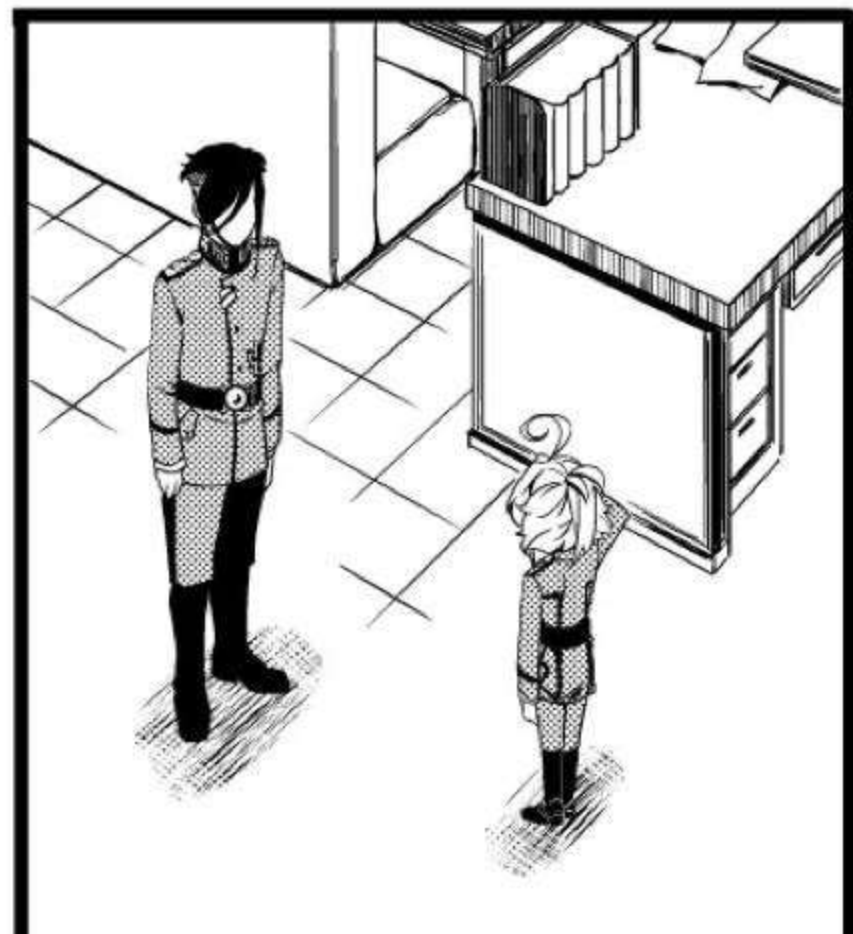
そんなものは言い訳に
ならない最低な行為だと
自覚している

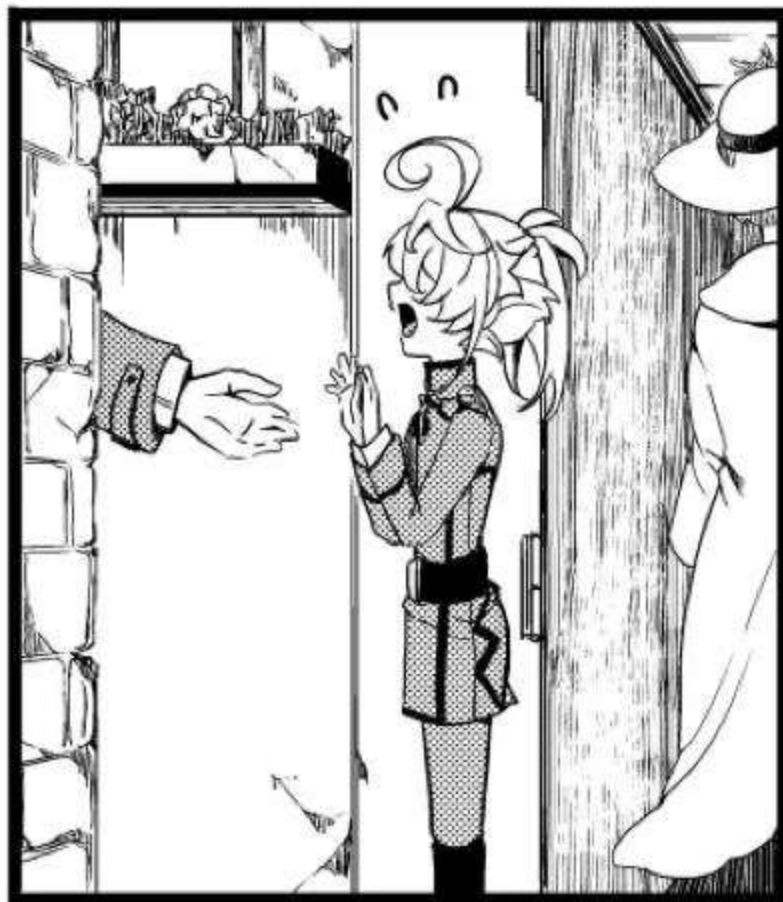
それでも

あの白銀を組み敷いた時の
支配欲だとか、求められる
独占欲だとか、

己の仄暗い欲望を
認めてしまえば
そこから先の罪悪感
薄らいだ

恋愛感情はない





だから彼女が他の誰かと関係があるうが



私には

何も言う権利はない





お好きにどうぞ

昨日の今日で
お元気な事で

何の話だ？



小官の様な凹凸のない
身体で満足出来るのですか？



突然何を言ってるのか
解らないがそうか：
他に相手が出来たんだってな

すまなかった

は？何の話です？

手を繋いで楽しそうに
男と歩いてただろう

貴官にはそういう
浮いた話は無縁だと
思っていたから意外だったよ

何のお話か
解りませんが

大佐殿こそ娼婦と
娼館街へ行くのを
見ましたよ

小官のような小娘よりも
豊富な女性の満足
出来るのでは？

娼館……？

ああ、あれは

一言

飽きたからこの関係を
解消したいと申して
くださったれば綺麗に
なかった事にしますとも

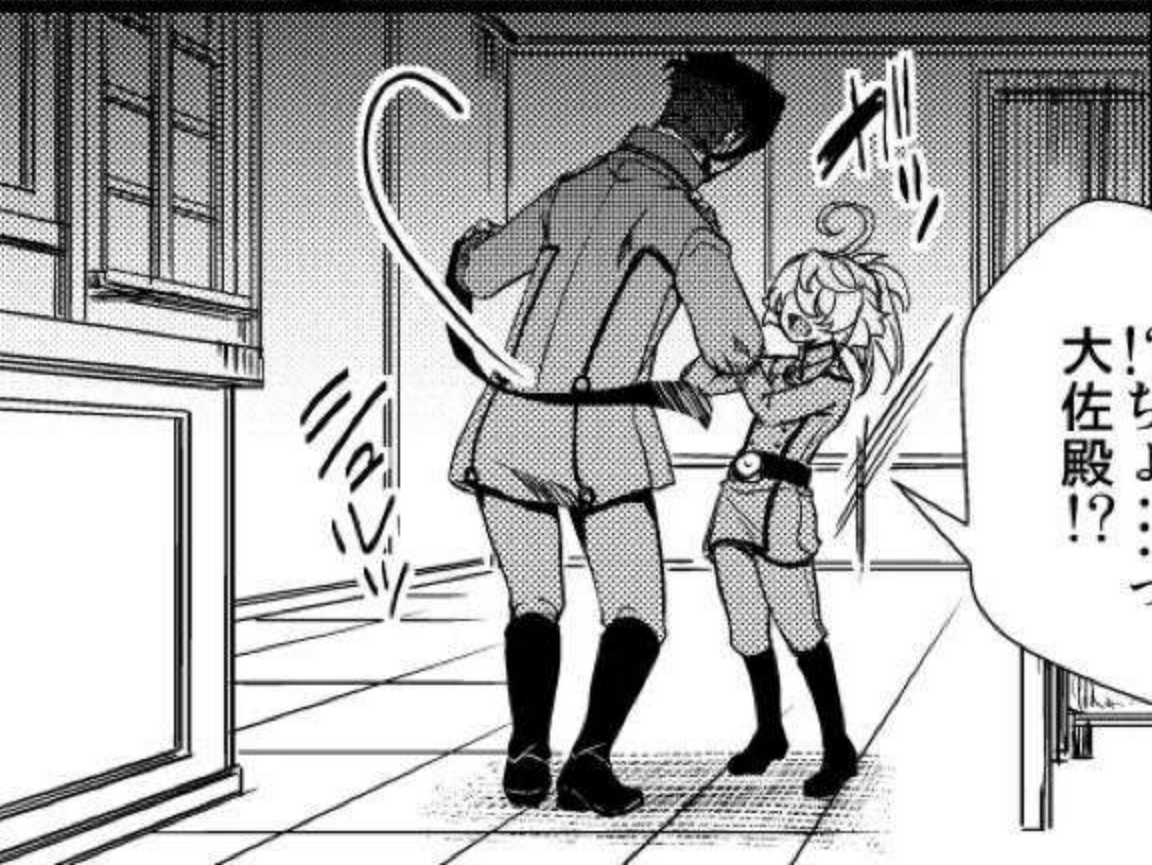
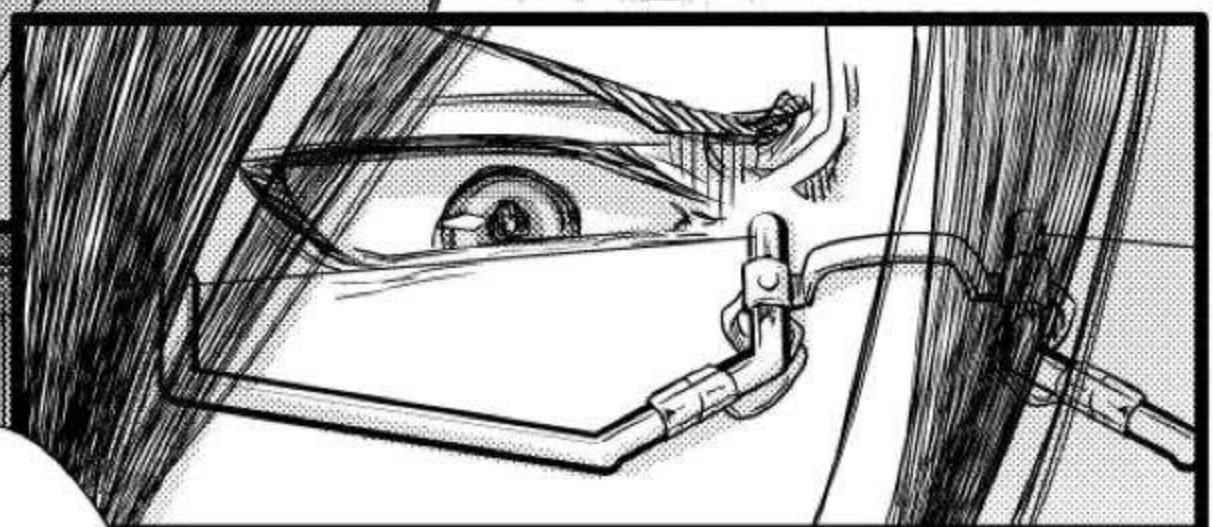




何を言って…

もちろん他言も
しませんので
ご安心ください

弱みを握って
どうこうする程
落ちぶれては
おりませんので



!?ちよ…っ
大佐殿!?

何を……っ



大佐殿!?

私がいっつ飽きたんだ？
なんて言ったんだ？



君の同意が必要なくても
良いのなら好きにさせて
もらおうか

なっ……!
ちよ……っ



どうした？
いつもみたい
に可愛い声で
啼かないのか？

ここは既に
硬くなってるが？

……ッ

声を出すほどの
事でもないの
で……

……そうか
どこまで持つ
だろうな？

せいぜい頑張りたまえ
少佐

はあ
はあ

はあ
はあ



ウツウツ

ウツウツ

ウツウツ

ウツウツ

ウツウツ

ウツウツ

ウツウツ

ウツウツ

ウツウツ

ウツウツ

ウツウツ

ウツウツ!!!



意外と早かったかな？

なっ...そんなとこ...
舐めないで...っ...
くっさっ...

意外な所に
弱点があったものだ



アッ...

アッ...



アッ...

アッ...



先程よりも
乳首が硬く
なってるぞ？



大佐殿こそ...

こんなに硬くされてる
ではないですか





おや、踏みつけられるのが
お好みでしたか？



そうと申していただきましたらば
もっと早くしましたのに

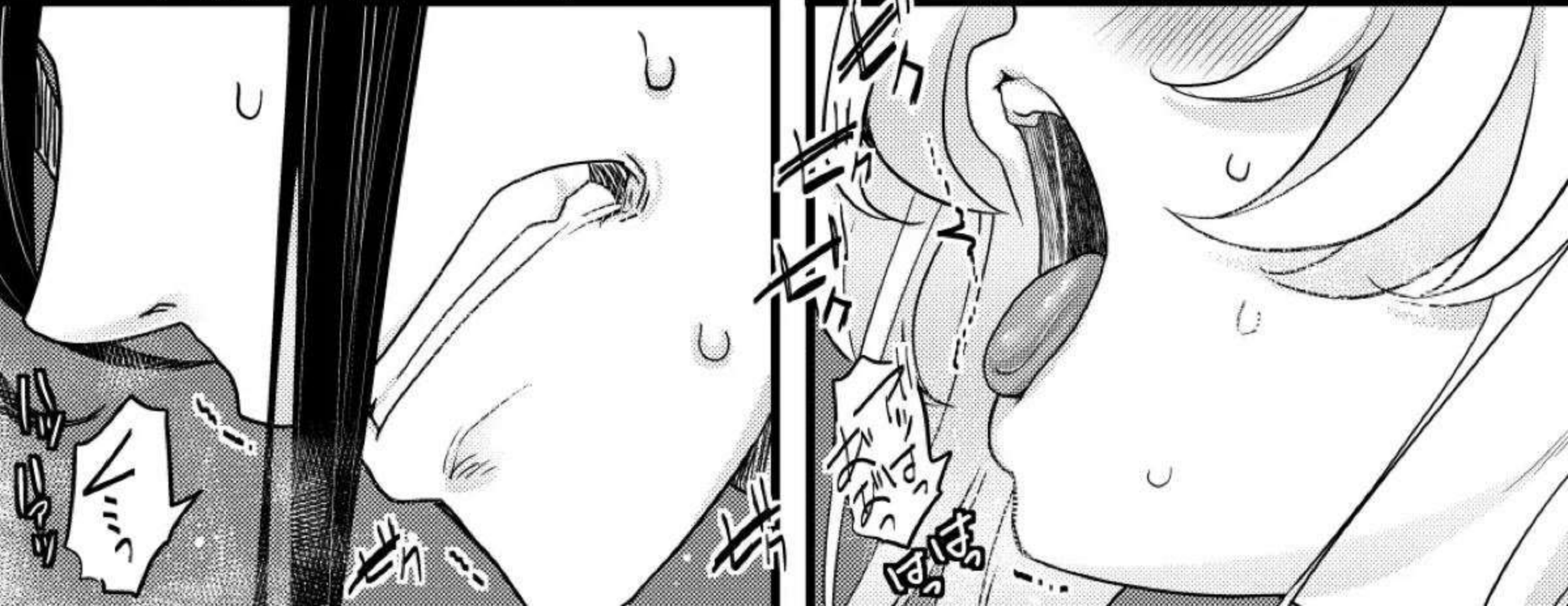


随分と特殊な性癖を
お持ちで

……ッ……









ヒクついでるな
少佐？

いきたいか？

…っこんなガチガチに
してる大佐殿に言われたく
ないですねっ…



いきたいのは
大佐殿の方では？

びくびく





いつものように
強請つてみたまえ

腰が揺れてるぞ少佐



限界なのは……
大佐殿でしよう……っ

……ああ……
そうだな

え？あつ
……まっ……

あつあつあつ
あつあつあつ

ゴッ

クッ
クッ
クッ

ゴッ

クッ
クッ

クッ
クッ
クッ





まっ……て……
くださっ……あっ

イツてる……
イツてる……っからあっ！

好きにして良いと
言ったのは君だろー

また……っ
イくうっ

あーあーあー

イくっ

あーあー

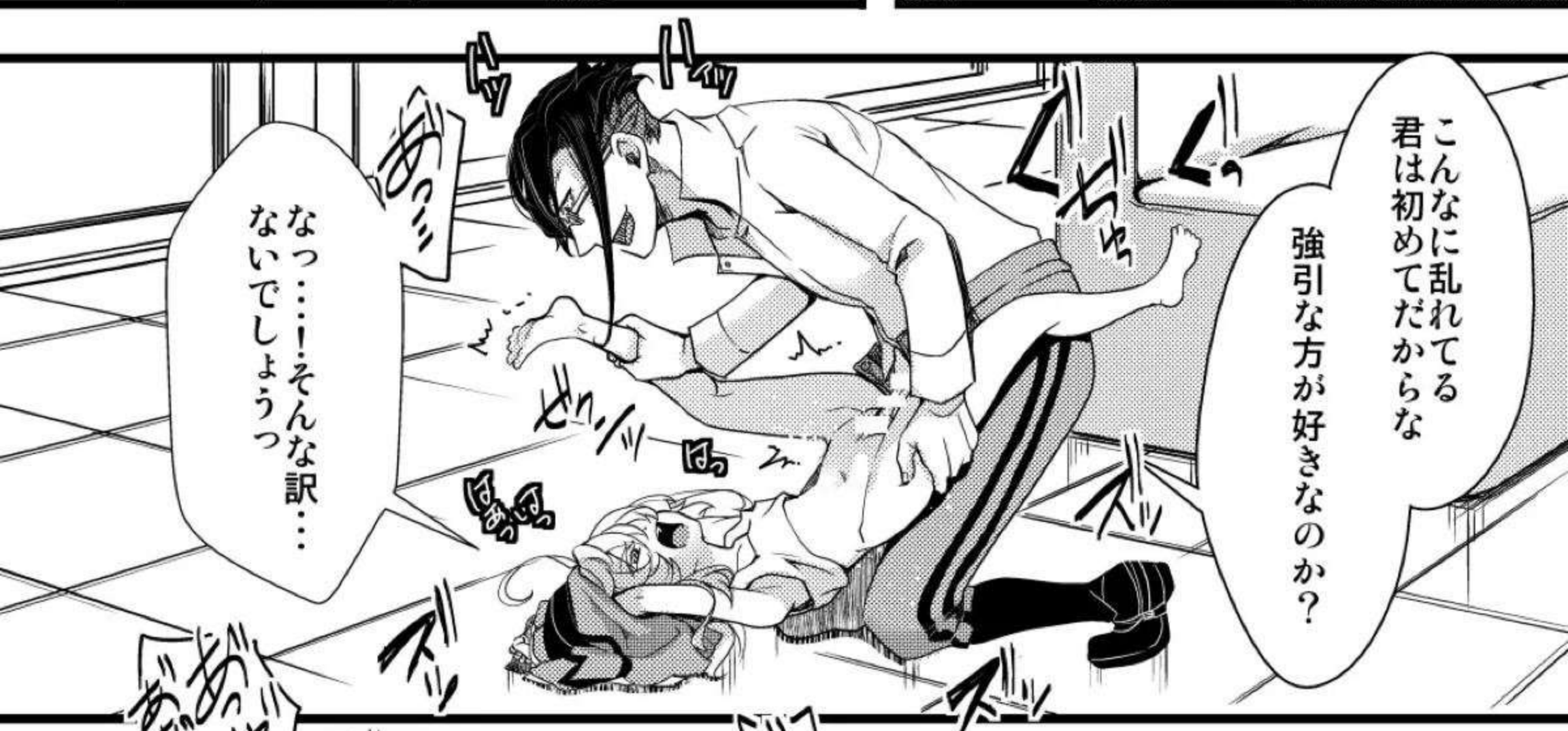
あーあー



イイの間違いだらう？
こんななに締め付けて
ナカをヒクつかせて……

……っあ……なたこそ
……っ……

いつもより……っ
余裕がなさそうで……っ



こんなに乱れてる
君は初めてだからな
強引な方が好きなのか？

なっ……そんな訳……
ないでしょうっ



まだ余裕が
ありそうだな



いい啼き声だな少佐

声を抑えるほどの
理性は残ってるのか

ならもつと激しく
させてもらおう

うううう

ぐわんぐわん

うううう

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん

ぐわんぐわん







ドドド

ドド

ドドド

ドドド

ドドド

ドド

ドド

ターニヤツ

ドドド

ドドド



…すまない
大丈夫か?

…謝るくらいなら…
もっと手加減してほしい
のですが…

あぁあ
あぁあ

君相手には手を抜く
訳にはいかないな

それに
煽ったのは君だ





こんな身体で
満足出来ましたか…

……っ



ああ、その話だが

君が見た娼婦は
帝国軍人だ
もちろん証明も出来る

スパイの情報が入ったので
探ってもらっていたんだ

娼館街というのは
色々な客が来るからな
情報も集まりやすい

は!? あなたは
そんな事一言も……!



…ああ…君には
他の誰かがいたんだっただか…



…ですから
何の話です？

先日街中で男と
いたでしょうか？

相手の顔は見えなかったが
楽しそうだったじゃないか

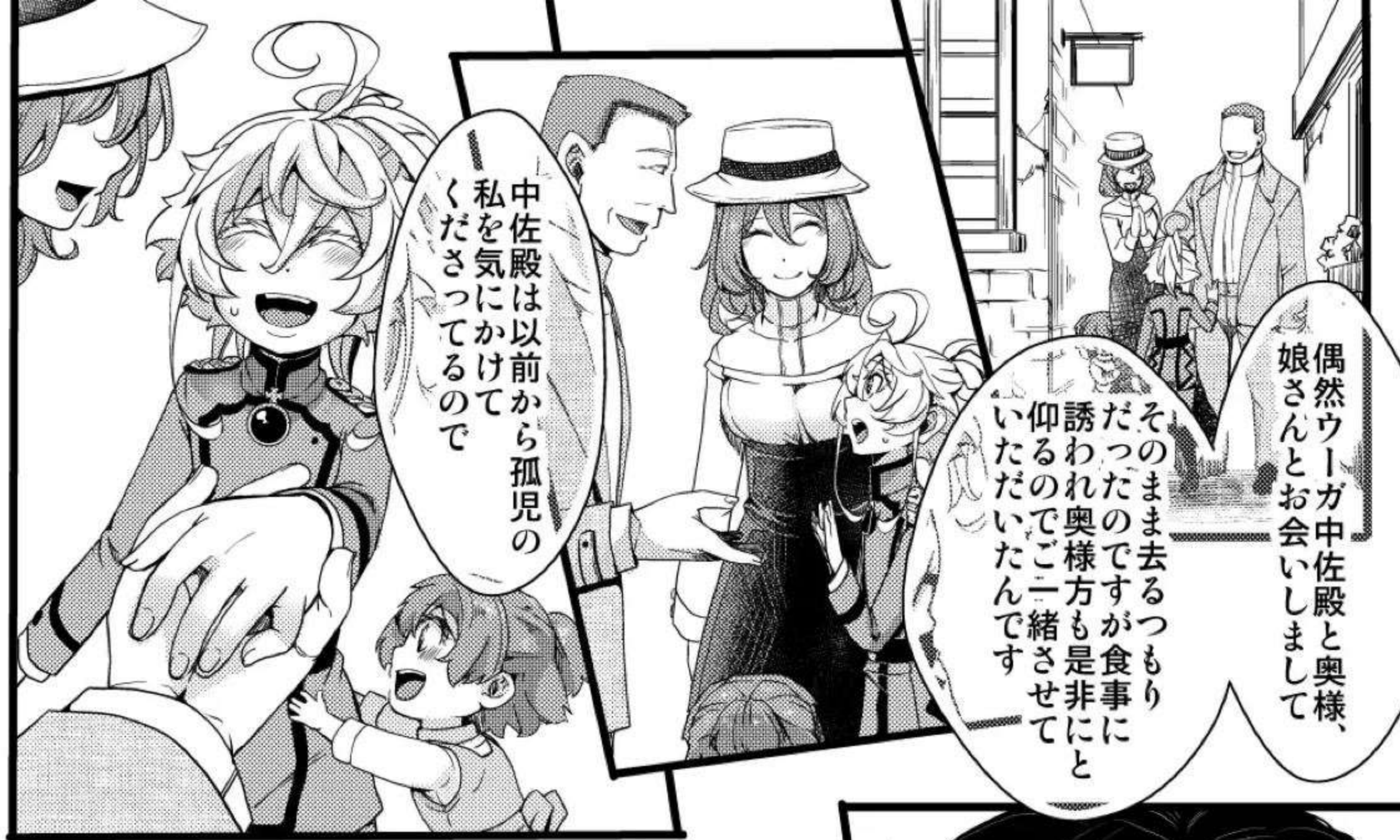


先日？街中…？
…ああ



あれはウーガ中佐殿ですよ

は？だが
手を引かれて…



偶然ウーガ中佐殿と奥様、娘さんとお会いしまして

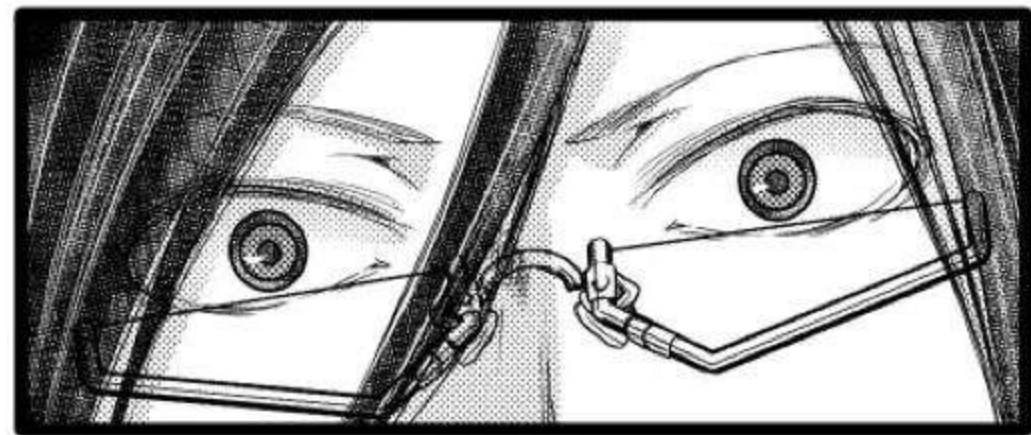
そのまま去るつもりだったのですが食事に誘われ奥様方も是非にと仰るので一緒にさせていただきます

中佐殿は以前から孤児の私を気にかけてくださってるので

おや、もしや嫉妬でもしてくださったのですか？

そうだったのか…

レルゲン大佐殿？



.....ああ

そうだな



え？

私の様な凡人が
君を独占する資格は
ないと思っていたし

君が誰かを好きになっても
何も言う権利はないと思っていた

だが君が他の男と
歩いているのを見た時
正直とても嫉妬した：

順番が間違ってる事は
十分承知しているが

私と正式に
交際してくれないか

ターニヤ



かああ

え……あの……っ

……あ……

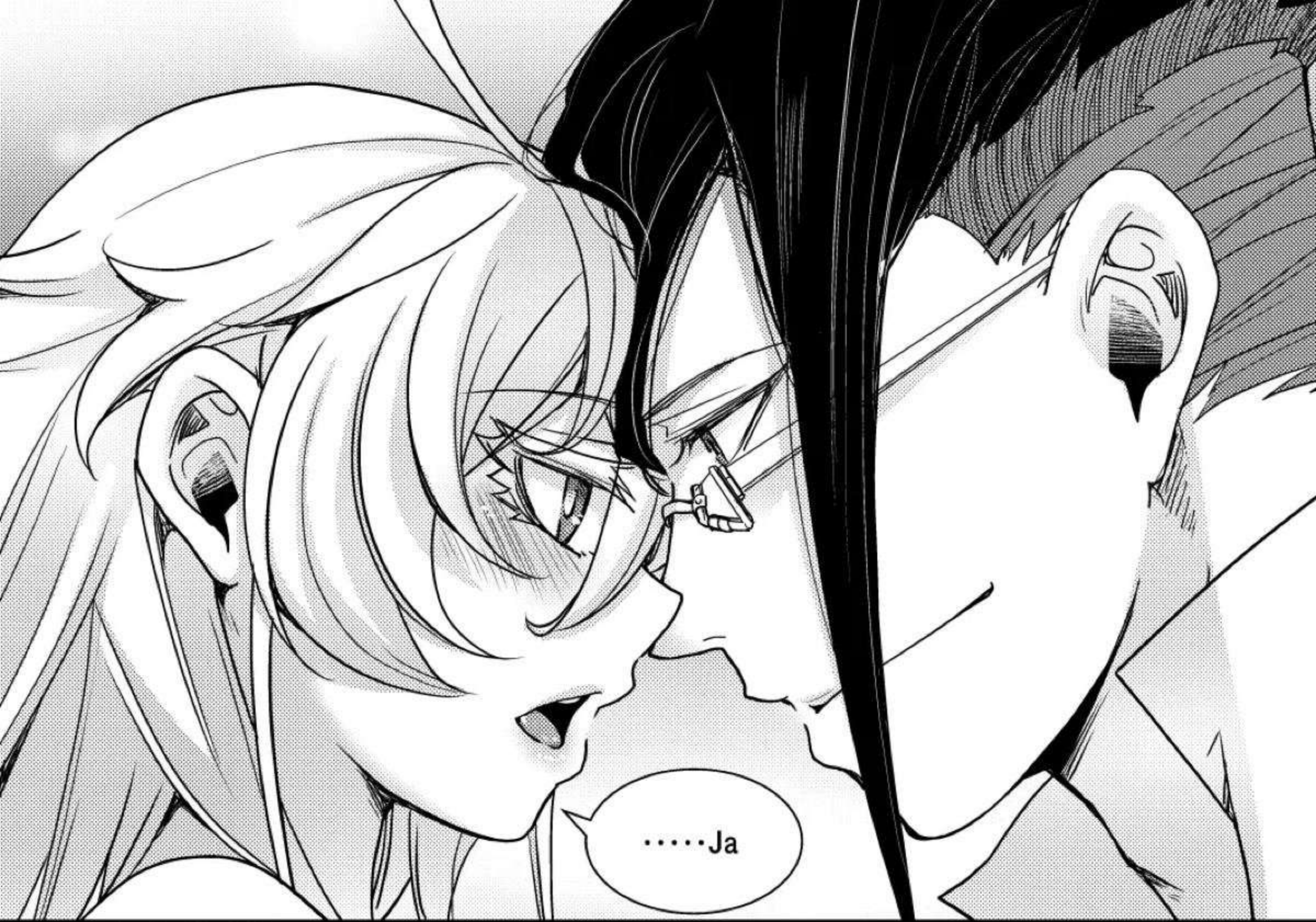


嫌ならハッキリと
断ってくれ

Ja?

Nein?





END